

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は研究申請課題名)	献血者への問診と HIV 陽性率の各国間の比較 (献血延期・不適対策の有効性の評価及びそれぞれの管轄(国・地域)におけるばらつきの原因の同定 (Measuring efficiency of blood donation deferral and identifying causes for variation between different jurisdictions) BEST 共同研究 (BEST Collaborative) #123)
研究期間 (西暦)	2020 年 9 月～ 2022 年 3 月
研究機関名	日本赤十字社 血液事業本部
研究責任者職氏名	技術部次長 高梨美乃子

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

国際的な輸血領域研究者集団である BEST のフランスの研究者が中心となり、共同研究として、9 か国 (アメリカ、カナダ、イギリス、イタリア、オーストラリア、オランダ、ブラジル、スペイン、日本) が参加し、各国 (地域) における献血適応基準、献血延期・不適基準、及び検査法などを踏まえ HIV 陽性症例の頻度を解析することにより、HIV の残存リスクを明らかにし、特に早期 HIV 感染者からの献血を防止し、輸血の安全性向上に貢献することを目的とします。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液等の種類：なし

献血血液等の情報：2007 年から 2016 年の各年における HIV 検査数と陽性数を男女別、献血歴の有無別に抽出する。

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

Etablissement Français du Sang, La Plaine St Denis, France
Pierre Tiberghien

4 研究方法《情報の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：■行いません。 □行います。

《研究方法》

2007 年から 2016 年の各年における HIV 検査数と陽性数を男女別、献血歴の有無別に抽出します。性別と献血歴以外の個人情報抽出せず、個人は特定されません。

各国の検査陽性者頻度と問診基準を比較検討します。血液は使用しません。

5 検査結果等の使用の拒否について

使用する情報をシステムより抽出する前で、個人の特定ができる状態であれば研究使用の拒否が出来ます。ご自身の情報の使用をご希望されない方は下記のご連絡いただければ、その方の情報は削除して利用しません。

6 上記 5 を受け付ける方法

下記の問い合わせ先にご連絡ください。

本研究に関する問い合わせ先

所属	日本赤十字社血液事業本部技術部
担当者	高梨美乃子
電話	03-3437-7205
E-mail	M-takanashi@jrc.or.jp